

第2回国際会議の準備のための研修 (TCPIC)の開催結果について

総務省 情報通信国際戦略局 国際協力課

みやけ ゆういちろう
三宅 雄一郎



1. はじめに

今回はアジア・太平洋電気通信共同体 (APT) が主催している若手行政官のための研修に参加してきたのでその模様について紹介する。これまでも国際島 (国際政策課・国際経済課・国際協力課の総称) からは国際会議にたくさんの職員が出張してきたが、研修目的の出張はおそらく史上初である。2016年7月の着任以降、OJT (On the Job Training) で様々な国際会議に出席してきたが、そこでの合意形成には熟練した技術が必要となると感じられた。この研修では、OJTでやれば慣れるのに時間を要するそのような技術を短期間で習得することを目的にしており、今後国際会議で活躍することが期待されている若手行政官にとっては有意義である。この研修は昨年が続いて2回目の開催であるが、大変好評でフェローシップでなくとも自費を払ってでも参加を希望する者がいるくらいである。研修では複数の講師が助言を行ったが、いずれも国際機関等で長い経験を積んだ人たちであり、彼らから教えてもらえる貴重な機会であった。この研修には、オンラインで実施する第1フェーズと実際にバンコクのAPT事務局において対面式で行う第2フェーズがあり、その選考に至る過程はかなり長かった。第1フェーズでは100名近い応募があったが、課題による絞込みを経て第2フェーズの参加者は30名程度となった。参加者はアジア・太平洋地域からバランスよく出席しており、人的ネットワークを構築する上で有意義であった。本稿では、まずこの研修の概要について説明した上で、第1フェーズと4日間にわたる第2フェーズについて報告したい。

2. 第2回国際会議の準備のための研修 (TCPIC) 概要

(1) 日程

第1フェーズ：2017年1月30日～2月3日

第2フェーズ：2017年3月27日～3月30日

(2) 主催者

APT、ITU共催

(3) 後援

総務省

(4) 参加資格

国際関係の職務経験が3年未満の者。または将来的に国際関係の職務を希望する者。

国際会議での意思決定プロセスを理解したい者。

APT加盟国出身であること。

(5) 期待される結果

- 参加者は国際会議の基本構造を理解することができる。具体的には、国連の組織で共通の慣習 (ITUやAPTで典型的なもの) がもともとなっている国際会議における運営方法、議論の方法、必要な手続きなどである。

- 参加者は国際会議における関与と参加の仕方を改善するのに役立つ技術を修得することができる。

- 論理的思考、交渉術、プレゼンテーションスキルも改善できる。

- プログラムは参加者の人的ネットワーク構築を可能にする。

3. 第1フェーズ

第1フェーズはオンラインで2017年1月30日から2月3日の1週間にわたって行われた。オンライン上で実施されるため、職場で他の仕事もしながらの実施となった。第1フェーズの構成は次のとおりである。(100点満点)

① オンラインディスカッション (点数は40/100)

これはITUアカデミーのHPで各参加者が与えられた議題に従って各国参加者が意見を述べ合い、時に相手の発言に対してもコメントするというものである。

議題は次のとおりであった。

「自国のICTの発展段階を考慮した上で、国際機関が最もインパクトを持つ分野はなにかあなたの考えを述べよ。」

「情報通信に関する国際機関や国際会議がこれからの4年間で取り扱うべき2つの最も重要な課題について議論せよ。」

② 課題

(1) クイズ (点数は40/100)

ITUやAPT、国連等の内容について与えられた資料で



勉強してから選択肢式のテストを受けた。テストは2回受験することができ、私は1度目が100点中67点、2度目が80点であった。点数のよい方が採用されることとなる。

(2) エッセイ (点数は20/100)

与えられた課題について500字以内でエッセイを書く。課題は次のとおり。

執筆にあたっては、ICT部門の過去5年間のトレンドを学んだ上でICTのファクトや図表・統計を用いる。

「ICT領域（政策、技術、サービス等）のトレンドを考慮した上で、世界電気通信開発会議（WTDC-17）でこれからの4年間でアジア・太平洋地域で国際的に協力する必要がある鍵となる領域について説明する。自国のICT分野の発展に前向きなインパクトを持つとあなたが信じる分野においてである。」

ディスカッションでは自分の意見を述べるだけでなく、他の参加者の意見について適切にコメントすることも求められた。エッセイでは今年10月にアルゼンチンのブエノスアイレスで開催されるWTDC-17を想定していたが、WTDCに関する背景知識がなかったためITUラインにもアドバイスを

もらって勉強した。英文でエッセイを書くというのはかなりの集中力を要したが、よい訓練になった。第1フェーズでは予想外に課題が多かったが、限られた時間の中で何とか全てを提出した。第2フェーズへの参加通知がメールで到着した時にはほっとした。

4. 第2フェーズ

長かった選考プロセスを経て、いよいよ対面式の第2フェーズについて報告する。舞台はタイ（バンコク）のAPT事務局内の会議場で、4日間にわたって研修が行われた。私はAPT事務局近くのホテルに宿泊した。多くの研修生が宿泊しており、毎朝シャトルバスでAPT事務局まで送迎された。研修は大きく分ければ、講師の講義を聞く部分と研修生がグループに分かれて議論する部分に分けられる。この研修の肝はなんといっても後者であり、MOCK Conference（模擬国際会議）がその中核にある。この研修が通称MOCKと呼ばれる所以である。

参加した研修生は30名で、5つのグループに分かれていた。参加国は次のとおりである。アフガニスタン、バングラデシュ、カンボジア、インドネシア、イラン、日本、ラオス、



■写真1. 研修を終えたグループ5と講師陣



■写真2. 津川講師（左）と近藤次長（右）との記念撮影

マレーシア、モンゴル、ミャンマー、パキスタン、パプアニューギニア、スリランカ、タイ、トンガ、バヌアツ、ベトナム、ブータン。研修生は年齢層が若く（私も若いのであるが…）、各国でこれからの情報通信行政を担うホープが参加している印象であった。

私は第5グループに所属し、ブータン、カンボジア、モンゴル、パプアニューギニア、タイからの参加者であった。担当講師はKDDIの津川清一氏であった。

MOCKで学ぶことができたのは大きく分けて、①決議案（Resolution）の作成の仕方②議長の役割である。①については、グループごとに分かれて与えられたトピックについてどのような内容が望ましいか合意が得られるまで議論した。決議案を作成するポイントについてはITU-T SG3の議長である津川氏のアドバイスが大変役に立った。そして、各グループでとりまとめた決議案を会議場でそれぞれ発表し、修正の上、採択した。私も発表する機会を得たが、決議案の説明をするという経験はなかなか実用的であった。その後、他のグループからのコメントを受けて修正を行っていく様子は臨場感があり、本当の会合にも役立ちそうであった。

もう一つの柱である②議長の役割については、各グループから選抜された議長役が本番さながらのアジェンダで会議を進行していくものである。アジェンダを採択し、副議長を選出し、ToRを議論し、決議案を議論し採択するという一連の流れを体験できるのは貴重な経験である。

5. 人的ネットワークの構築

この研修に参加して得られる財産の一つは人的ネットワークの構築だと思えた。研修中には、コーヒーブレイク

や昼食の際に各国からの講師や参加者と話をした。そこで得られる情報というのは有意義で、まさに会議はコーヒーブレイクで決まるのだと感じられた。

研修に参加するのは若手の行政官であるので、大半は元気で、密度の濃い研修後もバンコクの夜を楽しんでいた。以下は筆者が研修の夜に他の参加者とショッピングモールに出かけた際の模様である。

…それは確か研修3日目の夜であったが、ホテルのロビーにマレーシア、ミャンマー、ベトナム、インドネシアの若手行政官が集合していた。私が近くを通りかかったところ、これからバンコク中心部のショッピングモールに行くのだが一緒にどうかと誘われた。私は連日の研修で満身創痍であったが、これはアジア各国に友人ネットワークを作る好機だと考え、ついていくことにした。泊まっていたホテルはバンコク中心部からかなり離れていたため、タクシーに便乗し中心部を目指した。

ショッピングモールまでは1時間ばかりかかったが、車内ではインドネシアから来ていた参加者と気楽に話しができた。昨年末にフィジーで開催された第40回管理委員会に参加していたとか、今年神戸で開催されたWTO関係の会合に参加した際に神戸牛を食べておいしかったなどという話をした。私が20代だと言ったら、そうだったのか!と驚かれた。

ショッピングモールはかなり新しく1階から螺旋状になっていた。ご飯を食べ、途中メンバーと定員オーバーしてトゥクトゥクに乗るなど、なかなか冒険的であった。

ホテルに戻って来たときには11時を過ぎていたが、参加者と親しくなることができたので満足であった。研修生と



■写真3. 研修を終え記念撮影



■写真4. 仲良くなった研修メンバーと

親しくなれたことは今後APTの仕事をしていく上で大きな財産である。

6. おわりに

研修では、前国連食糧農業機関 (FAO) 事務局次長兼アジア太平洋事務所長の小沼廣幸氏の講演やバングラデシュの駐タイ大使のスピーチなど国際会議経験者の話を聞くことができた。

研修の最後に、投票によって最優秀グループが決められ、トンガ率いるグループ1が表彰された。また、スリランカからの参加者で昨年、日本で実施されたAPT研修に参加していたメンバーもいて、長期的視点からの人材育成の取り組みは重要であると感じた。国際会議のエッセンスが凝縮された密度の濃い研修であった。その技法は習うより慣れるの部分はあると思うので、今後国際会議に参加した際には研修で身に付けたことを積極的に活用していきたい。最後に研修に送り出していただいたAPTライン、国際協力課長そしてAPT事務局・講師の皆様にご礼申し上げます。



■写真5. 第2回国際会議の準備のための研修の終了証書